

「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010」第1刷 正誤表

第1刷を購入された読者の皆様へ：訂正箇所が多くなって申し訳ございません。2010年11月15日より、訂正日欄を設けました。欄の数字は下記の意味です。

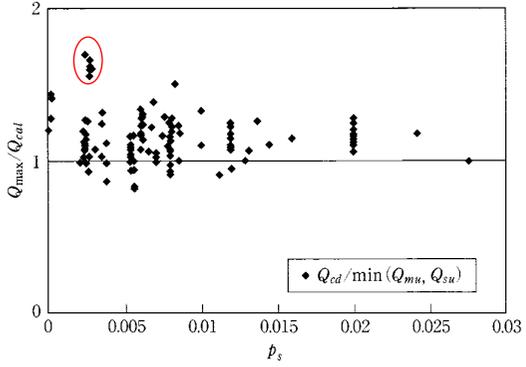
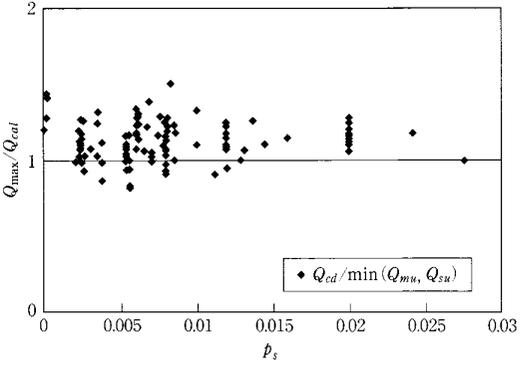
- 1) 2010年6月以前の訂正
- 2) 上記以降、2010年10月以前の訂正
- 3) 2010年11月15日の訂正
- 4) 2010年12月13日の訂正
- 5) 2011年1月11日の訂正
- 6) 2011年4月26日の訂正
- 7) 2011年6月29日の訂正
- 8) 2012年2月24日の訂正
- 9) 2012年4月24日の訂正
- 10) 2012年6月25日の訂正
- 11) 2013年7月15日の訂正
- 12) 2013年9月15日の訂正
- 13) 2014年5月7日の訂正
- 14) 2014年7月15日の訂正
- 15) 2015年8月27日の訂正
- 16) 2016年4月8日の訂正
- 17) 2016年6月11日の訂正
- 18) 2016年7月9日の訂正
- 19) 2017年6月6日の訂正 (黄色網掛け)
- 20) 2018年5月5日の訂正 (赤色網掛け)

箇所	誤	正	訂正日	備考
22 頁, 3~4 行目	$l_d = L/2$ と <u>してよい</u>	$l_d = L/2$ と <u>する</u>	5)	重要
23 頁, 7 行目	l_d と <u>してよい</u>	l_d と <u>する</u>	5)	重要
26 頁, 5 行目	付着割裂の <u>規準</u> となる強度	付着割裂の <u>基準</u> となる強度	13)	
28 頁, 表 17.2 の [注]	d_b : 定着する鉄筋の <u>公称直径</u>	d_b : 定着する鉄筋の <u>呼び名に用いた数値 (mm)</u>	4)	
39 頁, 脚注	2007 <u>年度版</u> 建築物の・・・	2007 <u>年版</u> 建築物の・・・	13)	
54 頁, 下から 12-13 行目	および平成 12 年建設省告示第 1450 号第 1 第 2 号	削除	20)	
70 頁, (解 8.13) 式	$k_s = \frac{A}{I^2} \int_{y_i}^{y_c} \frac{S(y)^2}{\underline{S}(y)} dy$	$k_s = \frac{A}{I^2} \int_{y_i}^{y_c} \frac{S(y)^2}{\underline{z}(y)} dy$	1)	
75 頁, 4 行目	$p_t = \underline{\sigma}_t / (bD)$	$p_t = \underline{a}_t / (bD)$	1)	
75 頁, 脚注	1986.6	1968.6	1)	
78 頁, 3 行目	本 <u>基準</u>	本 <u>規準</u>	3)	
79 頁, 4 行目	乗じて求める.	乗じて求める。 <u>19 条の (解 19.19) 式は, これを複数開口などに拡張したものである. (下線部加筆)</u>	3)	重要
79 頁, 8 行目	ただし $\xi < 0.4$ とする	ただし $\xi \leq 0.4$ とする	4)	
79 頁, 下から 3 行目	せん断剛性低下率 <u>断</u> β	下線部削除	1)	
81 頁, 2 行目	菅野 ²³⁾ は回帰分析法により	菅野 ²⁶⁾ は回帰分析法により	5)	
107 頁, 4~5 行目	\underline{p} : 柱スパン長さ l_x, l_y 内のスラブの積載荷重で次式による $\underline{p} = p l_x l_y$	\underline{P} : 柱スパン長さ l_x, l_y 内のスラブの積載荷重で次式による $\underline{P} = p l_x l_y$	10)	
111 頁, 解説図 11.9	$\underline{\tau}_u (c_2 + d) d$	$\underline{\tau}_u (c_2 + d) d$	10)	
112 頁, 脚注 4 行目	(解 11.23) 式における V_u, \underline{M}_u を	(解 11.29) 式における V_u, \underline{M}_u を	10)	重要

<p>126 頁, 解説図 13.4</p>			<p>8)</p>	
<p>128 頁, 4 行目</p>	$C_2 = p_t \frac{12 - 12t_1 + 4t_1^2 + \frac{t_1^3}{np_t} f_t}{12 - 6t_1} f_t$	$C_2 = p_t \frac{12 - 12t_1 + 4t_1^2 + \frac{t_1^3}{np_t} f_t}{12 - 6t_1} f_t$	<p>19)</p>	
<p>132 頁, 下から 2~6 行目</p>	<p>釣合鉄筋比は, 以下のように<u>1.74</u> %となり, p_tは長期のp_{tb}を下回っている.</p> $p_{tb} = \frac{1}{2 \left(1 + \frac{f_t}{nf_c} \right) \left[\frac{f_t}{nf_c} \{ n + (n+1)\gamma d_{c1} \} - (n-1)\gamma(d_{c1} - 1) \right]}$ $= \frac{1}{2 \left(1 + \frac{195}{13 \times 10} \right) \left[\frac{195}{13 \times 10} \{ 13 + (13+1) \times 1 \times 0.133 \} - (13-1)1(0.133-1) \right]}$ $= 0.01744 (= 1.74\%)$ <p>ただし, $d_{c1} = \frac{126}{950} = 0.133$, 表 12.1 より $F_c = 30\text{N/mm}^2$に対応する $n = 13$を使用した.</p>	<p>釣合鉄筋比は, 以下のように<u>1.65</u> %となり, p_tは長期のp_{tb}を下回っている.</p> $p_{tb} = \frac{1}{2 \left(1 + \frac{f_t}{nf_c} \right) \left[\frac{f_t}{nf_c} \{ n + (n-1)\gamma d_{c1} \} - (n-1)\gamma(1-d_{c1}) \right]}$ $= \frac{1}{2 \left(1 + \frac{195}{13 \times 10} \right) \left[\frac{195}{13 \times 10} \{ 13 + (13-1) \times 1 \times 0.153 \} - (13-1)1(1-0.153) \right]}$ $= 0.0165 (= 1.65\%)$ <p>ただし, $d_{c1} = \frac{126}{824} = 0.153$, 表 12.1 より $F_c = 30\text{N/mm}^2$に対応する $n = 13$を使用した.</p>	<p>6)</p>	

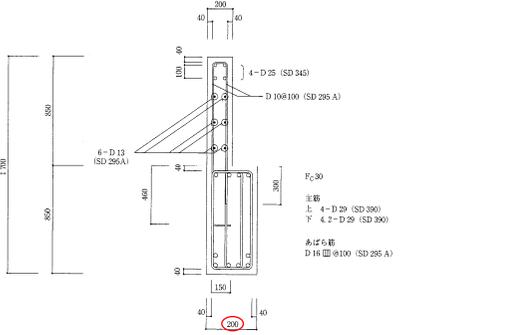
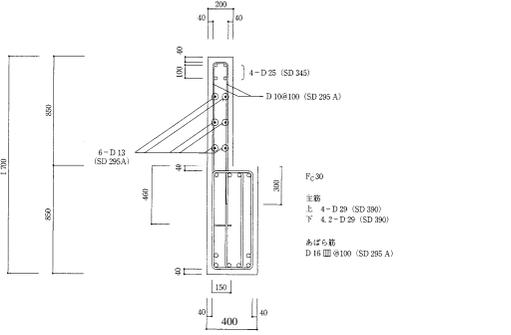
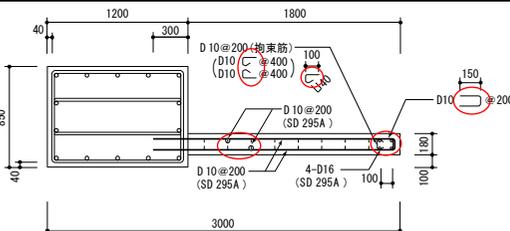
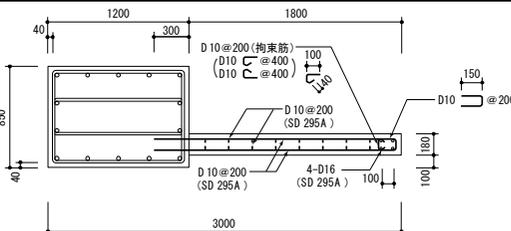
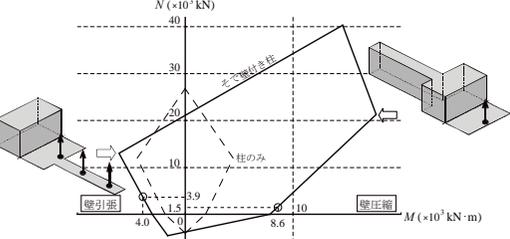
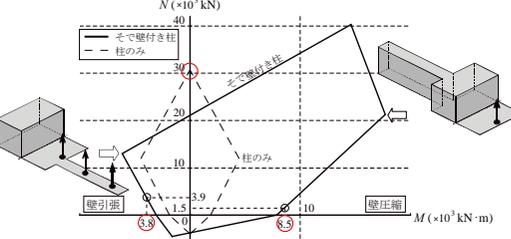
133 頁, 7~10 行目	ここで, 短期の釣合鉄筋比 p_{tb} は下式より, 長期と同じ <u>1.74%</u> となり, p_t は釣合鉄筋比以下である. $p_{tb} = \frac{1}{2\left(1 + \frac{390}{13 \times 20}\right) \left[\frac{390}{13 \times 20} \{13 + (13+1) \times 1 \times 0.133\} - (13-1)1(0.133-1) \right]}$ $= 0.0174 (= 1.74\%)$	ここで, 短期の釣合鉄筋比 p_{tb} は下式より, 長期と同じ <u>1.65%</u> となり, p_t は釣合鉄筋比以下である. $p_{tb} = \frac{1}{2\left(1 + \frac{390}{13 \times 20}\right) \left[\frac{390}{13 \times 20} \{13 + (13-1) \times 1 \times 0.153\} - (13-1)1(1-0.153) \right]}$ $= 0.0165 (= 1.65\%)$	6)	
133 頁, 下から 1 行目	長期および短期ともに釣合鉄筋比は <u>1.74%</u> であり	長期および短期ともに釣合鉄筋比は <u>1.65%</u> であり	6)	
134 頁, 14 条解説 4 行目	軸方向力の制限値以下	軸方向力が制限値以下	1)	
139 頁, 解説図 14.3	$x_{nb1} = 0.3177$	$x_{nb1} = 0.3224$	3)	
	$f_c = 8 \text{ N/mm}^2, f_t = 215 \text{ N/mm}^2$	$f_c = 8 \text{ N/mm}^2, f_t = 215 \text{ N/mm}^2$	15)	
140 頁, 解説図 14.4	$f_c = 16 \text{ N/mm}^2, f_t = 345 \text{ N/mm}^2$	$f_c = 16 \text{ N/mm}^2, f_t = 345 \text{ N/mm}^2$	15)	
163 頁, 解説図 15.7	f_s (長期) = <u>0.74</u> N/mm ²	f_s (長期) = <u>0.73</u> N/mm ²	8)	
	f_s (短期) = <u>1.11</u> N/mm ²	f_s (短期) = <u>1.10</u> N/mm ²		
192 頁, 解説図 15.25	A 通り側	A 通り端	1)	
199 頁, 8 行目	$l_d = L/2$ としてよい	$l_d = L/2$ とする	5)	重要
200 頁, 2 行目	l_d としてよい	l_d とする	5)	重要
204 頁, 解説表 16.1	一弾弾性	一端弾性	1)	
208 頁, 下から 5 行目	修正係数 S について	下線部削除	1)	
226 頁, 12 行目	(4) (ii) の検討と同様に, 付着長さ $l_d = 4178 \text{ mm}$	カットオフ筋が計算上不要となる位置 (<u>1903 mm</u>) を考慮して $l_d = (7815 - 1903 + 860) / 2 = 3386 \text{ mm}$	1)	重要
226 頁, 下から 7 行目	$\tau_y = \frac{\sigma_y \cdot d_b}{4(l_d - d_1)} = \frac{390 \times 29}{4 \times (4178 - 860)} = 0.85 \text{ N/mm}^2$	$\tau_y = \frac{\sigma_y \cdot d_b}{4(l_d - d_1)} = \frac{390 \times 29}{4 \times (3386 - 860)} = 1.12 \text{ N/mm}^2$	1)	重要
226 頁, 下から 3 行目	$\tau_y = 0.85 \text{ N/mm}^2 < K \cdot f_b = 2.28 \text{ N/mm}^2$ O.K.	$\tau_y = 1.12 \text{ N/mm}^2 < K \cdot f_b = 2.28 \text{ N/mm}^2$ O.K.	1)	重要

229 頁, 下から 6 行目	付着割裂の <u>規準</u> となる強度	付着割裂の <u>基準</u> となる強度	13)	
231 頁, 表 17.2 の [注]	d_b : 定着する鉄筋の <u>公称直径</u>	d_b : 定着する鉄筋の <u>呼び名に用いた数値 (mm)</u>	4)	
241 頁, 下から 9 行目	$l_a \leq l_{ab} = \frac{\sigma_y d_b}{4Kf_b}$	$l_a \geq l_{ab} = \frac{\sigma_y d_b}{4Kf_b}$ (不等号の向き)	20)	重要
254 頁, 解説図 17.30	84 mm 追加	48 mm 追加	4)	重要
255 頁, 2 行目	155 - 3×19 (直線部) + <u>2</u> ×19 (折曲げ) + 8×19 (余長) = <u>288</u> mm	155 - 3×19 (直線部) + <u>5π/4</u> ×19 (折曲げ) + 8×19 (余長) = <u>324</u> mm	2)	重要
255 頁, 3 行目	372 - <u>288</u> = <u>84</u> mm	372 - <u>324</u> = <u>48</u> mm	2)	重要
270 頁, 16 行目	…×(1× <u>w_p</u> /10 + l _x /10 000)×…	…×(1+ <u>w_p</u> /10 + l _x /10 000)×…	4)	
271 頁, 3 行目	$a_t = M(f_t \times j)$	$a_t = M/(f_t \times j)$ (下線部加筆)	4)	
272 頁, 2 行目	小梁に作用するスラブの負担荷重は <u>台形とするのが精解であるが</u>	小梁に作用するスラブの負担荷重を <u>台形とみなすことが妥当と考えられるが</u>	4)	
272 頁, 8 行目	外スパン $B_x = 0.1 \times 10\,000 \times 1 + 500 = 1\,500$ mm	削除	12)	
272 頁, 17~18 行目	・外スパン $\delta_{Bx} = \dots = 0.76$ mm	削除	12)	
272 頁, 20 行目	$\delta_{bi} = \delta_0 + (\text{内スパン}\delta_{Bx} + \text{外スパン}\delta_{Bx})/2 = 1.73$ mm	$\delta_{bi} = \delta_0 + \text{内スパン}\delta_{Bx} = 1.66$ mm	12)	
272 頁, 22 行目	$\delta_{b0} = \delta_{bi} \times (0.3\lambda_0 + 1.05) = 1.73(0.3 \times 6.5/6 + 1.05) = 2.38$ mm < 2.5 mm O. K.	$\delta_{b0} = \delta_{bi} \times (0.3\lambda_0 + 1.05) = 1.66(0.3 \times 6.5/6 + 1.05) = 2.28$ mm < 2.5 mm O. K.	12)	
272 頁, 23 行目	$\delta L = \delta_{bi} \times \psi/\alpha_y = 2.38 \times 7.5 = 17.9$ mm < 20 mm かつ 29.82 mm O. K.	$\delta L = \delta_{bi} \times \psi/\alpha_y = 2.28 \times 7.5 = 17.1$ mm < 20 mm かつ 29.82 mm O. K.	12)	
272 頁, 下から 4~5 行目	$\Delta M_{x1} = \dots \times 1.89$ = <u>-7.38</u> × 10 ⁶ Nmm/m = <u>-7.4</u> kNm/m	$\Delta M_{x1} = \dots \times 1.90$ = <u>-7.42</u> × 10 ⁶ Nmm/m = <u>-7.5</u> kNm/m	4)	
272 頁, 下から 1 行目	$\Delta \delta = \dots = 2.37 - 0.24 \times 2 = 1.89$ mm	$\Delta \delta = \dots = 2.38 - 0.24 \times 2 = 1.90$ mm	4)	
274 頁, 2 行目	$\delta_{By} = \dots \times 3.64 \times 10^4 = 0.24$ mm	$\delta_{By} = \dots \times 3.64 \times 10^{10} = 0.24$ mm	4)	
274 頁, 10 行目	$M_{x1} = -7.4$ kNm/m	$M_{x1} = -7.5$ kNm/m	4)	

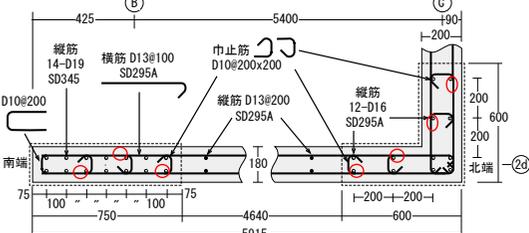
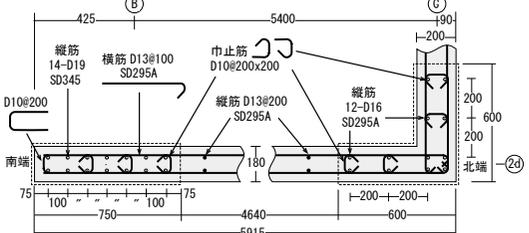
274 頁, 12 行目	$M_0 = \dots = -9.8 - \underline{7.4} = \underline{17.2}$ kNm/m	$M_0 = \dots = -9.8 - \underline{7.5} = \underline{17.3}$ kNm/m	4)	
274 頁, 15 行目	スラブのフェイスモーメントを, 梁心位置における負曲げモーメントの 0.8 倍と仮定する.	削除	4)	
274 頁, 16 行目	$\sigma_{x1} = \underline{0.8M_D} / Z = \underline{2.06} < 3.07$ N/mm ²	$\sigma_{x1} = \underline{M_0} / Z = \underline{2.60} < 3.07$ N/mm ²	4)	
282 頁, 脚注 4)	富井政英・江崎文也 <u>ほか</u> : 耐震壁の断面算定に関する検討 その 1, <u>コンクリートの許容せん断応力度案と無開口耐震壁ひび割れせん断応力度の関係,</u>	富井政英・江崎文也: 耐震壁の断面設計に関する検討 その 1 <u>—コンクリート許容せん断応力度案と無開口耐震壁ひび割れせん断応力度の関係—</u> ,	11)	
283 頁, 15~16 行目	確保するのは, 実質的には標準せん断力係数 ($C_0 = 0.2$ 以上) の地震力の 3 倍~4 倍以上の地震力に対応するせん断終局強度を確保していることになる.	確保すれば, 実質的には標準せん断力係数 ($C_0 = 0.2$ 以上) の地震力の 3 倍~4 倍以上の地震力に対応するせん断終局強度が確保される.	3)	
284 頁, 19~20 行目	<u>セットバックがある場合など形状配置などによっては</u>	<u>連層耐震壁の直下にある単層連スパンの壁などでは梁を含む</u>	3)	重要
290 頁, 参考文献 19)~22)	千葉 修	千葉 脩	3)	
294 頁, 解説図 19.9			1)	
304 頁, 16 行目	実験データが <u>ほとんどない</u> ので	実験データが <u>まだ少ない</u> ので	3)	

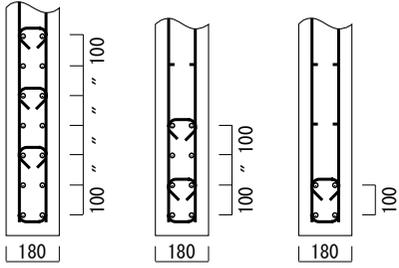
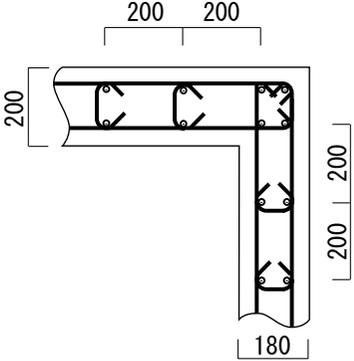
309 頁, 下から 10~11 行目	$\lambda = \frac{1}{3} \left(2 + \frac{l_0}{l} \right) \quad (\text{解 19.32})$ $\lambda = \frac{1}{n_h + 1} \left(n_h + \frac{l_0}{l} \right) \quad (\text{解 19.33})$	$\lambda = \frac{2}{3} \left(\frac{1 + \frac{l_0}{l}}{\quad} \right) \quad (\text{解 19.32})$ $\lambda = \frac{n_h}{n_h + 1} \left(\frac{1 + \frac{l_0}{l}}{\quad} \right) \quad (\text{解 19.33})$	14)	重要
310 頁, 6~7 行目	②によって r_3 を定義する(この例では $\Sigma h_0 = 2h_0$) <u>か, あるいはすべての階で $r_3 = 1$ とする</u> のが適切であろう.	下線部削除	1)	重要
319 頁, 下から 3 行目	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' l_f}$	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' l_c f}$	6)	重要
319 頁, 下から 2 行目	<u>t は計算上の必要厚さなので</u>	<u>t' は計算上の必要厚さなので</u>	6)	重要
342 頁, 下から 3~4 行目	杭の <u>最小中心間隔</u> , <u>あるいは基礎スラブ周辺から杭中心までの最短距離を杭径の 2 倍</u> とすれば, <u>つねに $\sqrt{A_c / A_t} = 2.0$ である.</u>	杭の <u>中心間隔を杭径の 2 倍とし</u> , <u>基礎スラブ周辺から杭中心までの最短距離を杭径の 1 倍とすれば</u> , <u>$\sqrt{A_c / A_t} = 2$ である.</u>	14)	
343 頁, 下から 4~5 行目	杭頭曲げモーメントの総和と柱脚曲げモーメントの和を <u>杭</u> で負担することになる.	杭頭曲げモーメントの総和と柱脚曲げモーメントの和を <u>基礎スラブ</u> で負担することになる.	16)	
358 頁, 1 行目	<u>$(k_p = 2.36(p_t)^{0.23})$</u>	下線部削除	1)	
362 頁, 下から 11 行目	<u>$H = 250$ (mm)</u>	<u>$H = 150$ (mm)</u>	18)	
363 頁, 8 行目	単純梁としたときの梁中央の長期せん断力 $Q_0 = 3$ (kN)	削除	10)	重要
367 頁, 下から 4 行目	短期許容耐力の <u>上限値</u> は	下線部削除	7)	1988 年版からの誤り
367 頁, 下から 2 行目	(解 22.8) 式	(解 22.9) 式	3)	
367 頁, 下から 1 行目	(解 22.6) 式	(解 22.9) 式	3)	
368 頁, 6 行目	長期許容耐力の <u>上限値</u> は	下線部削除	7)	1988 年版からの誤り

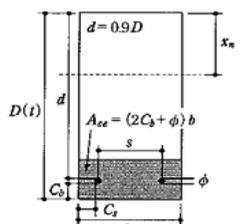
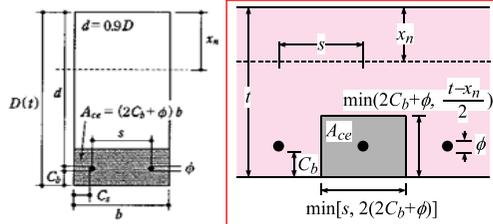
369 頁, 解説図 22.10	$T_{01} = (2a_1/x)A_0 w f_t$	$T_{01} = \left(\frac{2a_1}{x} - 0.001b \right) A_0 w f_t$	7)	重要 1988 年版からの誤り	
	(解 22.5) 式 ~ (解 22.10) 式	(解 22.8) 式 ~ (解 22.13) 式	3)		
371 頁, 2 行目	$T = 0.6C/2 = 84/2 = \underline{41}$ kNm	$T = 0.6C/2 = 84/2 = \underline{42}$ kNm	13)		
371 頁, 11 行目	$\psi_0 = \{(400 - 45 \times 2) \times (800 - 45 \times 2)\} \times 2$ = 2 040 mm	$\psi_0 = \{(400 - 45 \times 2) + (800 - 45 \times 2)\} \times 2$ = 2 040 mm	6)		
371 頁, 15 行目	$\dots = T/(w f_t A_0 b) = 41.0 \times 16^6 / (295 \times \dots) = 0.00158$	$\dots = T/(w f_t A_0 b) = 42.0 \times 10^6 / (295 \times \dots) = 0.00162$	6), 19)		
371 頁, 16 行目	$p_{wt} = 0.00233$	$p_{wt} = 0.00245$	19)		
371 頁, 19~20 行目	$a_s = T \psi_0 / (2 f_t A_0) = \underline{884}$ mm ² (長期) $\underline{551}$ mm ² (短期)	$a_s = T \psi_0 / (2 f_t A_0) = \underline{999}$ mm ² (長期) $\underline{660}$ mm ² (短期)	19)		
372 頁, 6 行目	$p_w = 0.002$	$p_{ws} = 0.001$	6)	重要	
372 頁, 11~12 行目	短期の場合では, $(\underline{551}$ mm ² - 508 mm ²) ÷ 2 = $\underline{21.5}$ mm ² を, 長期の場合では, $(\underline{884}$ mm ² - 508 mm ²) ÷ 2 = $\underline{188}$ mm ² を上下に割り振る.	短期の場合では, $(\underline{660}$ mm ² - 508 mm ²) ÷ 2 = $\underline{76}$ mm ² を, 長期の場合では, $(\underline{999}$ mm ² - 508 mm ²) ÷ 2 = $\underline{245.5}$ mm ² を上下に割り振る.	19)		
372 頁, 解説表 22.4	ねじり補強筋の加算		ねじり補強筋の加算		17) 19) 20)
	短期		短期		
	$\underline{1540}$	$\underline{1540} + 21.5 = \underline{1562}$	$\underline{1540}$	$\underline{1540} + 76 = \underline{1616}$	
		508		508	
	$\underline{403}$	$\underline{403} + 21.5 = \underline{425}$	$\underline{403}$	$\underline{403} + 76 = \underline{479}$	
	$\underline{0.05} \rightarrow \underline{0.1}$	$\underline{0.1} + 0.233 = \underline{0.34}$	$\underline{0} \rightarrow \underline{0.1}$	$\underline{0.1} + 0.245 = \underline{0.345}$	
	0	0 + $\underline{188} = \underline{188}$	0	0 + $\underline{245.5} = \underline{245.5}$	
	—	508	—	508	
	381	$\underline{611} + 188 = \underline{799}$	381	$\underline{611} + 245.5 = \underline{857}$	
	(0.1)	(0.34)	(0.1)	(0.345)	

395 頁, 付図 2.16	<p><u>壁脚曲げモーメント</u></p> <p><u>壁頭曲げモーメント</u></p>	<p><u>壁板要素脚部の曲げモーメント</u></p> <p><u>壁板要素頂部の曲げモーメント</u></p>	1)	
402 頁, 付図 2.26		 <p>(誤) 200 → (正) 400</p>	2)	
407 頁, 付図 2.29	<p><u>SD259A</u></p> 	<p><u>SD295A</u></p> 	1)	
409 頁, 下から 3 行目	<u>1.0</u> × 10 ³ kNm	<u>1.7</u> × 10 ³ kNm	2)	
409 頁, 下から 2~3 行目	また, 柱のみの短期許容曲げモーメントよりも小さい。	削除	2)	重要
409 頁, 付図 2.32			2)	

410 頁, 付図 2.33			2)	
410 頁, 下から 4 行目	6 804 kNm	6 052 kNm	2)	
411 頁, 付図 2.34			2)	重要
414 頁, 6~8 行目	$0.8(l-l_{op})\left(\frac{A_d f_t}{\sqrt{2}} + A_{v0} f_t\right) + \frac{t(l-l_{op})^2}{4(n_h+1)} p_{sv} f_t$ $= 0.8 \times 6\,250 \times \left(\frac{2 \times 127}{\sqrt{2}} + 2 \times 129\right) \times 295 \times 10^{-6}$ $+ \frac{250 \times 6\,250^2}{4 \times 2} \times 0.00796 \times 295 \times 10^{-6}$ $= 852 + 2\,866 = 3\,718 \text{ kNm} > 1\,354 \text{ kNm O.K.}$	$(l-l_{op})\left(\frac{A_d f_t}{\sqrt{2}} + A_{v0} f_t\right) + \frac{t(l-l_{op})^2}{4(n_h+1)} p_{sv} f_t$ $= 6\,250 \times \left(\frac{2 \times 127}{\sqrt{2}} + 2 \times 129\right) \times 295 \times 10^{-6}$ $+ \frac{250 \times 6\,250^2}{4 \times 2} \times 0.00796 \times 295 \times 10^{-6}$ $= 1\,065 + 2\,866 = 3\,931 \text{ kNm} > 1\,354 \text{ kNm O.K.}$	3)	重要

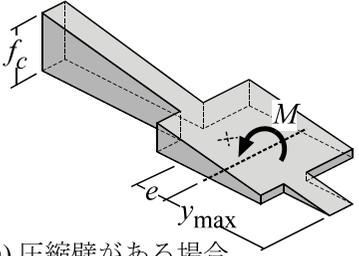
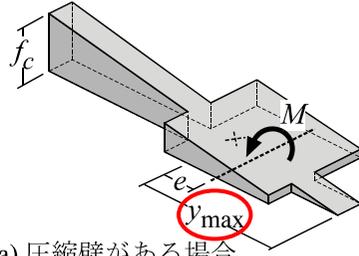
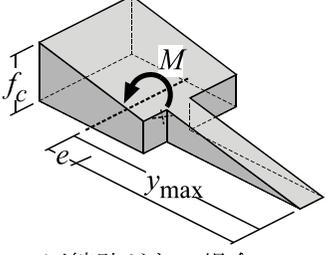
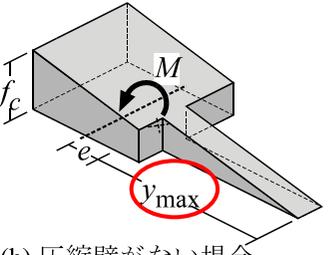
414 頁, 13~15 行目	$\underline{0.8}(h-h_{0p})\left(\frac{A_d f_t}{\sqrt{2}} + A_{h0} f_t\right) + \frac{t(h-h_{0p})^2}{4n_v} p_{sh} f_t$ $= \underline{0.8} \times 3100 \times \left(\frac{2 \times 127}{\sqrt{2}} + 2 \times 129\right) \times 295 \times 10^{-6}$ $+ \frac{250 \times 3100^2}{4 \times 1} \times 0.0127 \times 295 \times 10^{-6}$ $= \underline{423} + 2550 = \underline{2673} \text{ kNm} > 1241 \text{ kNm O.K.}$	$\underline{(h-h_{0p})}\left(\frac{A_d f_t}{\sqrt{2}} + A_{h0} f_t\right) + \frac{t(h-h_{0p})^2}{4n_v} p_{sh} f_t$ $= \underline{3100} \times \left(\frac{2 \times 127}{\sqrt{2}} + 2 \times 129\right) \times 295 \times 10^{-6}$ $+ \frac{250 \times 3100^2}{4 \times 1} \times 0.0127 \times 295 \times 10^{-6}$ $= \underline{528} + 2550 = \underline{2778} \text{ kNm} > 1241 \text{ kNm O.K.}$	3)	重要
414 頁, 下から 8 行目	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' l_e f_t}$ $= \frac{2707 \times \frac{5620}{5620 + 3210}}{0.012 \times \underline{8050} \times 295} \times 10^3 = \underline{60} \text{ mm}$	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' l_e f_t}$ $= \frac{2707 \times \frac{5620}{5620 + 3210}}{0.012 \times \underline{6350} \times 295} \times 10^3 = \underline{77} \text{ mm}$	6)	重要
414 頁, 下から 6 行目	$\frac{st'}{2} = \frac{6350 \times \underline{60}}{2} = \underline{191} \times 10^3 \text{ mm}^2$	$\frac{st'}{2} = \frac{6350 \times \underline{77}}{2} = \underline{244} \times 10^3 \text{ mm}^2$	6)	重要
414 頁, 下から 3 行目	$\max(\sqrt{st'/3}, 2t')$ $= \max(\sqrt{6350 \times \underline{60}/3}, 2 \times \underline{60})$ $= \max(\underline{356}, 120) = \underline{356} \text{ mm}$	$\max(\sqrt{st'/3}, 2t')$ $= \max(\sqrt{6350 \times \underline{77}/3}, 2 \times \underline{77})$ $= \max(\underline{404}, 154) = \underline{404} \text{ mm}$	6)	重要
416 頁, 付図 2.37(a)			1)	

418 頁, 16 行目	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' f_t}$ $= \frac{906 \times 1}{0.012 \times 5915 \times 295} \times 10^3 = 43 \text{ mm}$	$t' = \frac{Q_D \times \frac{Q_w}{Q_w + \sum Q_c}}{p_s' f_t}$ $= \frac{906 \times 1}{0.012 \times 0.8 \times 5915 \times 295} \times 10^3 = 54 \text{ mm}$	6)	
418 頁, 18 行目	$\frac{st'}{2} = \frac{5915 \times 43}{2} = 88.15 \times 10^3 \text{ mm}^2$	$\frac{st'}{2} = \frac{5915 \times 54}{2} = 160 \times 10^3 \text{ mm}^2$	6)	
418 頁, 20 行目	$\max(\sqrt{st'/3}, 2t')$ $= \max(\sqrt{5915 \times 43/3}, 2 \times 43)$ $= \max(291, 86) = 291 \text{ mm}$	$\max(\sqrt{st'/3}, 2t')$ $= \max(\sqrt{5915 \times 54/3}, 2 \times 54)$ $= \max(326, 108) = 326 \text{ mm}$	6)	
429 頁, 付図 2.55	<p>C_{B2d}, C_{B4d} の寸法の数値の印刷がつぶれている</p>	 <p>180 100 100 100 100 100 100</p> <p>1~4階 5~6階 7階</p>	1)	
<p>C_{C2d}, C_{C4d} の寸法の数値の印刷がつぶれている</p>	 <p>200 200 200 200 200 180</p>			

444 頁, 下から 2 行目	スラブを幅 $0.62 \text{ m} \times \frac{3}{4}$	スラブを幅 $6.2 \text{ m} \times \frac{3}{4}$	10)	1999 年版からの誤り
445 頁, 10 行目	$M_{F1} = \pm 148/3.1 = \pm 47.7 \text{ kN} \cdot \text{m}$, $M_{G1} = \pm 343/3.1 = \pm 110.8 \text{ kN} \cdot \text{m}$	$M_{F1} = \pm 148/3.1 = \pm 47.7 \text{ kN} \cdot \text{m/m}$, $M_{G1} = \pm 343/3.1 = \pm 110.8 \text{ kN} \cdot \text{m/m}$	10)	1999 年版からの誤り
446 頁, 3 行目	996 mm^2	$996 \text{ mm}^2/\text{m}$	10)	1999 年版からの誤り
446 頁, 6 行目	$1\,342 \text{ mm}^2$	$1\,342 \text{ mm}^2/\text{m}$	10)	1999 年版からの誤り
447 頁, 下から 1 行目	$V_A = \dots = 1\,283 \text{ kN}$	$V_A = \dots = 1\,266 \text{ kN}$	10)	1999 年版からの誤り
457 頁, 下から 4~5 行目	最大ひび割れ幅 $w_{\max} = 1.5w_{av}$ (1)	ひび割れ制御目標値 w_D と鉄筋位置での最大ひび割れ幅 w_{\max} $w_{\max} = \frac{d-x_n}{D-x_n} w_D = 1.5w_{av}$ または $w_{\max} = \frac{d-x_n}{t-x_n} w_D = 1.5w_{av}$ (1) (下線部加筆)	1)	重要
458 頁, 付図 7.1	 付図 7.1 断面と記号	 (a) 梁 (b) スラブ 付図 7.1 梁とスラブの断面と記号	1)	重要
458 頁, 下から 13 行目	ϕ : 鉄筋径	ϕ : 鉄筋径 (異なる径の鉄筋が並ぶ場合はその平均) (下線部加筆)	2)	

458 頁, 下から 7 行目	a_t : 鉄筋の断面積	a_t : 鉄筋の断面積 (<u>多段配筋の場合は一段目の鉄筋の断面積</u>) (下線部加筆)	9)	重要
458 頁, 下から 2 行目	スラブの場合 : $\min(2C_b + \phi, (t - x_n)/2) \times \min(s, 2(2C_b + \phi))$ 鉄筋 1 本あたり	スラブの場合 : $\min(2C_b + \phi, (t - x_n)/2) \times \min(s, 2(2C_b + \phi))$ 鉄筋 1 本あたり (下線部加筆)	1)	
459 頁, 7 行目	$(d - x) / (D - x)$	$(d - x_n) / (D - x_n)$	3)	
459 頁, 8 行目	x は中立軸深さ	x_n は中立軸深さ	2)	
459 頁, 12 行目	$l_{av} / \phi = 16.7p_e^{-0.642}$	$l_{av} / \phi = 0.868p_e^{-0.642}$	17)	
459 頁, 16 行目	$(D - x) / (d - x)$	$(D - x_n) / (d - x_n)$	3)	
460 頁, 下から 6 行目	梁の場合は $A_{ce} = (2C + \phi)b$ で求まるのに対して	梁の場合は $A_{ce} = (2C_b + \phi)b$ で求まるのに対して	1)	
460 頁, 下から 5 行目	せい方向は $2Cb + \phi$ と $(t - x_n)$ の小さい方 と幅方向は鉄筋間隔 s と $2C_b + \phi$ の小さい方	せい方向は $2C_b + \phi$ と $(t - x_n)/2$ の小さい方 と幅方向は鉄筋間隔 s と $2(2C_b + \phi)$ の小さい方	1)	重要
460 頁, 下から 2 行目	かぶり厚さ $C = 30 \text{ mm}$	かぶり厚さ $C (= C_b) = 30 \text{ mm}$ (下線部加筆)	1)	
460 頁, 下から 1 行目	付図 7.4 示す.	付図 7.4 に示す. <u>ただし、(3) 式の k は 0.1 としている.</u> (下線部加筆)	9)	
464 頁, 10 行目	精算値 : $\sigma_{tw} = 199 \text{ N/mm}^2$	精算値 : $x_n = 47.9 \text{ mm}$, $l_{av} = 150 \text{ mm}$, $\varepsilon_{s,av} = 7.22 \times 10^{-4}$ $\sigma = \min(275, 370, 253) = 253 \text{ N/mm}^2$ $\sigma_{tw} = 195 \text{ N/mm}^2$ (SD295), 215 N/mm^2 (SD345)	2)	

464 頁, 13 行目	精算値 : $\sigma_{tw} = 157 \text{ N/mm}^2$	精算値 : $x_n = 60.2 \text{ mm}$, $l_{av} = 199 \text{ mm}$, $\varepsilon_{s,av} = 4.59 \times 10^{-4}$ $\sigma = \min(275, 235, 199) = 199 \text{ N/mm}^2$ $\sigma_{tw} = 195 \text{ N/mm}^2$ (SD295), 199 N/mm^2 (SD345)	2)	
464 頁, 14 行目	表 7.1 の簡易式	付表 7.1 の簡易式 (下線部加筆)	2)	
467 頁, 下から 6 行目	$n_t = (1 + \psi)$	$n_t = n(1 + \psi)$ (下線部加筆)	2)	重要
467 頁, 下から 4 行目	$\sigma_s = 0.2 \text{ kN/mm}^2$	$\sigma_s = 0.195 \text{ kN/mm}^2$	2)	
467 頁, 下から 2 行目	ひび割れ剛性曲率分は除く) を付表 7.4 に示す.	ひび割れ剛性曲率分は除く) <u>すなわち $K_2 = EI/E_c I_{cr} - K_1$</u> を付表 7.4 に示す. (下線部加筆)	2)	
468 頁, 13 行目	$\phi_{sh1} = \int Ey S_n d_a / \int Ey^2 d_a$ $= 0.5 E S_n b \{ x_n^2 - (D - x_n) 2 \} / EI$	$\phi_{sh1} = \int Ey S_n dA / \int Ey^2 dA$ $= 0.5 E S_n b \{ x_n^2 - (D - x_n) 2 \} / EI$	10)	1988 年版からの誤り
469 頁, 1 行目	x_n : 弾性断面中立軸	x_n : 弾性断面中立軸 (p. 66, 解説図 8.2 の g) (下線部加筆)	2)	
470 頁, 付表 7.5	$S_n = 4 \times 10^4$	$S_n = 4 \times 10^4$	2)	
475 頁, 5 行目	$p = A_s / A_c$	$p = A_s / A_c$, $A_c = (2C_b + \phi)^2$, ϕ は鉄筋径 (下線部加筆)	3)	重要
481 頁, 付表 9.1 9 行目	$= B_i / C_i / (F_i / D_i)$	$= B_i / C_i / (F_i - D_i)$	3)	

<p>484 頁, (付 10.2) 式</p>	$I = \frac{b_1 D_1^3}{12} + b_1 D_1 \left(\frac{D_1 + D_2}{2} - e \right)^2$ $+ \frac{b_2 D_2^3}{12} + b_2 D_2 e^2$ $+ \frac{b_3 D_3^3}{12} + b_3 D_3 \left(\frac{D_2 + D_3}{2} + e \right)^2$	$I = \frac{b_1 D_1^3}{12} + b_1 D_1 \left(\frac{D_1 + D_2}{2} - e \right)^2$ $+ \frac{b_2 D_2^3}{12} + b_2 D_2 e^2$ $+ \frac{b_3 D_3^3}{12} + b_3 D_3 \left(\frac{D_2 + D_3}{2} + e \right)^2$	<p>1)</p>	
<p>490 頁, 付図 10.10</p>	 <p>(a) 圧縮壁がある場合</p>	 <p>(a) 圧縮壁がある場合</p>	<p>2)</p>	<p>重要</p>
	 <p>(b) 圧縮壁がない場合</p>	 <p>(b) 圧縮壁がない場合</p>		